

# 伝統継承



*Hirakata Neyagawa*  
*Traditional Rescue Team*

# 枚方寝屋川救助隊 50 年史

# 目次

## 〈発刊によせて〉

- 管理者（枚方市長）伏見 隆・・・・・・・・・・ 2  
副管理者（寝屋川市長）広瀬 慶輔・・・・・・・・ 3

## 〈発刊にあたり〉

- 消防長 東口 敏巳・・・・・・・・・・ 4

## 〈救助隊 沿革史〉

- 昭和の歩み・・・・・・・・・・ 5  
～救助隊誕生から昭和の終わり～  
平成からの歩み・・・・・・・・・・ 7  
～平成から令和へ～

## 〈現在の車両紹介〉

- 枚方消防署高度救助隊 救助工作車・・・・・・・・ 12  
枚方東消防署特別救助隊 救助工作車・・・・・・・・ 13  
寝屋川消防署特別救助隊 救助工作車・・・・・・・・ 14  
支援車Ⅱ型（3コンテナ）・・・・・・・・・・ 15

## 〈緊急消防援助隊での活動記録、国際救助隊〉

- 阪神大震災から緊急消防援助隊創設・・・・・・・・ 16  
豊岡水害・JR福知山線脱線事故・・・・・・・・ 17  
東日本大震災・・・・・・・・・・ 18  
熊本地震・・・・・・・・・・ 19  
平成30年7月豪雨・・・・・・・・・・ 20  
現在の大阪府の取り組み・・・・・・・・・・ 21  
国際救助隊について・・・・・・・・・・ 22

## 〈近畿地区指導会〉

- 過去の実績・・・・・・・・・・ 24

## 〈現役救助隊員へ〉

- 警防部長 メッセージ・・・・・・・・・・ 28



## 発刊によせて

枚方寝屋川消防組合管理者

枚方市長 伏見 隆



本消防組合の救助隊は、昭和 43 年 12 月に「消防特別救助分隊」として発足して以来、本年 50 周年という大きな節目の年を迎えました。

この間、本消防組合救助隊は枚方、寝屋川両市民の生命・身体・財産をあらゆる災害から守り、市民の信頼と期待に応えるために活動してきました。

平成 23 年 3 月の東日本大震災をはじめ、平成 28 年 4 月の熊本地震、平成 30 年 7 月豪雨など大規模自然災害時には、緊急消防援助隊として被災地に派遣し、被災者の気持ちに寄り添いながら献身的に救出・救助活動を行いました。

本消防組合管内においては、平成 30 年 6 月の大阪北部地震、9 月の台風 21 号は、未だかつて経験したことがない災害となり、各地域に甚大な被害がもたらされる中、市民の皆様からの多種多様な救助要請に真摯に対応してまいりました。

この間、全国的に注目される高度救助隊・特別救助隊へと発展できましたのも、関係者の皆様の並々ならぬご尽力、そして何より市民の皆様のご支援、ご協力があったことと、深く敬意と感謝を申し上げます。

今後も、台風、集中豪雨などの大規模な自然災害、そして、高い確率での発生が危惧される南海トラフ巨大地震など、市民の防災・減災に対する関心は高まるばかりです。

市民の皆様のお安全・安心を確保するため、更なる消防防災体制の充実強化を推進してまいりますので、関係者の皆様のより一層のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和元年 11 月

## 発刊によせて

枚方寝屋川消防組合副管理者

寝屋川市長 広瀬 慶輔



本消防組合の救助隊が、昭和43年12月に僅か10名の隊員で「消防特別救助分隊」として発足してから、本年で50周年という記念すべき節目を迎えました。

ここに至るまでの間、着実に歩みを進め、現在では高度な救助技術と知識を兼ね備えた「高度救助隊」へと転身し、全国でも注目される救助隊へと成長を遂げることができました。

これは、歴代関係者の並々ならぬご努力はもとより、枚方・寝屋川両市民の皆様の暖かいご支援、ご協力の賜物と心から敬意と感謝の意を表する次第でございます。

さて、近年、全国各地で多くの自然災害が発生し、土砂崩れによる家屋の全半壊や浸水被害等により、多くの尊い命と貴重な財産が失われています。

枚方、寝屋川両市域におきましても、平成30年の大阪府北部地震や台風21号により甚大な被害が発生しました。

災害の脅威を目の当たりにし、災害はどこにでも起こり得ることを常に念頭に置き、震災対応マニュアルの改訂や、自然災害時に必要となる資機材を整備するなど、消防体制の充実強化に向け様々な取組みを推進しております。

また、本消防組合の運営におきましても、消防体制の向上はもとより、市民から信頼される効率的な消防行政の確立と、危機管理体制の充実・強化に努めてまいります。

結びになりましたが、今後とも「安全・安心なまちづくり」に全力で取り組んでまいりますので、皆様方には、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げます、私の挨拶といたします。

令和元年11月

## 発刊にあたり

枚方寝屋川消防組合

消防長 東 口 敏 巳



昭和 43 年 12 月 21 日、車両 1 台、黒の救助服をまとった隊員 10 名による「消防特別救助分隊」が発足されて以来、「守るぞ人命」を合言葉に、その志は脈々と引継がれ、ここに救助隊発足 50 周年を迎えることができますことは、誠に喜ばしい限りです。

救助隊発足 40 周年の節目となった平成 21 年 4 月には「高度救助隊」を発足し、平成 23 年の東日本大地震、平成 28 年の熊本地震の際には緊急消防援助隊として被災地へ派遣し、大阪府下消防本部の救助隊のリーダー的存在として活動いたしました。

そのような中、組織の若返りによる様々な課題を克服するため、平成 30 年 4 月、新たに高度救助隊に救助司令を配置し、指導的救助隊として救助体制の充実強化を図るとともに、同隊を緊急消防援助隊派遣隊として位置付けました。平成 30 年 7 月豪雨災害では、緊急消防援助隊として広島県へ派遣し、約 1 か月に及ぶ懸命な救助活動にあたりました。さらには、新元号となった令和元年 6 月、日本で初めて開催された G20 大阪サミットや、9 月のラグビーワールドカップ 2019 花園において、消防特別警戒隊としての重責を果たしました。

現在、本消防組合では 3 台の救助工作車を配備しており、中でもバス型を採用した高度救助隊の車両は、災害出動途上に車内での装備着装や、大量の救助資機材の積載を可能とするなど、最先端の機能を有したものとなっています。

今後も救助隊員は、人員及び資機材を用いて、近い将来発生することが危惧される南海トラフ巨大地震や大規模な自然災害、複雑多様化する救助事案に対し、常に最前線で立ち向かい、市民の「安全と安心」の確保に全力を傾注する決意であります。

結びに、この輝かしい 50 年の歴史は先輩諸氏をはじめ全ての消防関係者の方々の不断の努力の積み重ねであり、また、枚方市・寝屋川市両市民の皆様のご支援とご協力による賜であり、深く感謝を申し上げ、発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。

令和元年 11 月

# 昭和の歩み

## 救助隊誕生

昭和43年12月21日

消防特別救助分隊（10名）を発足し枚方寝屋川消防署（枚方市中振）に配備する

※救助隊設置の法的根拠は、昭和61年4月に一部改正された消防法で明確にされたが、この年に配置されたのは、昭和41年2月に消防庁次長発の「市町村消防計画の基準の制定について」の救助救急計画並びに近隣の大阪市消防局で昭和40年12月に消防特科隊が編成された事等によるものと推測される

昭和43年12月23日

消防ポンプ自動車を救助車として配備する

昭和44年2月

救助隊を枚方寝屋川消防署から中宮出張所に移転配備

昭和44年4月

救助車を新規購入し、初めて配備する

※当時の救助車は現在のような工作車ではなく、救助資器材を積載できる1969年式のトヨタハイエースデリバリーバン（65馬力）である



※ 当時の救助車

昭和46年1月

1本部2署体制により、枚方本署及び寝屋川本署において救助分隊2隊運用開始（14名）

事務局を消防課救急防災係に置く

昭和47年5月

千日前デパートビル火災

昭和47年9月

第1回消防救助技術近畿地区指導会に出場

昭和49年3月

初の救助工作車を枚方・寝屋川両署に購入配備



※ 昭和42年8月 枚方パーク大劇場火災

昭和51年11月

各署に特別隊長を置き救助分隊、救急分隊、梯子分隊を担当

昭和52年2月

楠葉出張所に救助分隊及び救助工作車を増強配備（36名）

枚方署にクレーン付救助工作車を更新配備

昭和53年4月

救助隊運用要綱を作成

昭和53年9月

消防庁にて消防救助操法の基準制定



※ 昭和44年12月 光善寺駅前デパート火災

昭和 54 年 4 月

甲・乙部を 1・2 部に名称変更  
消防大学校救助課程に派遣開始

昭和 55 年 2 月

東出張所（現、南出張所）に救助分隊、救助工作車を増強配備（48 名）

昭和 55 年 4 月

寝屋川本署に照明付救助工作車を更新配備

昭和 55 年 10 月

東救助分隊を神田出張所に移転配備

昭和 57 年 2 月

ホテル・ニュージャパン火災

昭和 57 年 4 月

機構改革により部制実施

昭和 57 年 5 月

楠葉の救助工作車を高圧空気充填車に更新配備

昭和 59 年 11 月

神田救助工作車を更新配備

昭和 60 年 8 月

日航ジャンボ機墜落事故

昭和 61 年 4 月

当消防組合にて国際消防救助隊を発足  
救助体制について消防法の一部改正

※救助隊配置の法的根拠の明確化

枚方東消防署開設（1 本部 3 署）枚方本署救助分隊を川越出張所に、楠葉救助分隊を枚方東本署にそれぞれ移転配備

昭和 62 年 4 月

枚方東消防署に訓練塔及び水難訓練場が完成

昭和 62 年 9 月

消防庁にて救助活動に関する基準制定

救助隊の編成及び装備に係る細目並びに救助に関する基本的事項等



※ 昭和 55 年 2 月 京阪電車脱線転覆



※ 更新された神田救助工作車



※ 昭和 62 年 1 月 樟葉駅前にて出初式



※ 第 17 回消防救助技術近畿地区指導会（昭和 63 年）



※ 完成当初の東署訓練塔及びプール



# 平成からの歩み

平成元年 1月

昭和天皇崩御のため、出初式を中止

平成2年 3月

川越出張所の救助工作車をII型に更新

平成3年 1月

国際消防救助隊リーダー研修に隊員1名を派遣

平成3年 3月

国際消防救助隊員の派遣に関する要綱作成

平成3年 5月

救助隊運用規程を作成

信楽高原鉄道列車正面衝突事故

平成4年 3月

救助隊運用要綱を作成

寝屋川本署の救助工作車をII型に更新

平成4年 4月

川越救助隊を枚方本署に移転配備

平成5年 10月

3部制を導入（救助隊員60名）

平成6年 4月

枚方東本署の救助工作車をII型に更新

平成7年 1月17日

阪神淡路大震災

5時46分、兵庫県淡路島北部沖の明石海峡を震源とするM7.3の地震が発生

都市部直下で起こった地震により甚大な被害が発生し、犠牲者は6434人に達した

本消防組合にも発災後に救助隊、消防隊の応援要請があり第一次派遣隊が13時42分

に寝屋川署を出発、15時22分には神戸市消防局に到着

この震災で救助隊は、近隣消防応援府隊として出動、1月17日から25日までの9日間で延べ12回計96名を派遣し救出並びに消火活動を実施した

平成7年 3月20日

地下鉄サリン事件

東京の営団地下鉄丸ノ内線、日比谷線、千代田線でオウム真理教により神経ガスのサリンが散布されて13人の死者、約6300人の負傷者を出した事件。当初は、地下鉄内で急病人発生や異臭騒ぎ、爆発火災といった内容で指令がかかった事もあり、無防備で現場に駆け付けた消防、救急隊員も計135名負傷した。

今でも世界に類を見ない化学テロ災害であり、日本の消防におけるNBC災害対応のきっかけとなった

平成7年 6月

緊急消防援助隊を発足

阪神淡路大震災を教訓に国内の災害に迅速に対応するために発足された



※ 平成元年 防火ポスター「写真部門」出展 優秀賞



※ 平成2年 第7回大阪府綱引競技選手権大会



※ 平成4年5月 寝屋川市仁和寺本町4丁目の工場火災

平成7年11月

APECが大阪市で開催され、その警戒警備のため  
救助隊を派遣

平成11年4月

機構改革により救助係を統合整理し事務局を警防部  
消防救助課におく

平成11年11月

平成11年度近畿府県合同防災緊急消防援助隊の近  
畿ブロック合同訓練を枚方会場で開催

平成12年10月

鳥取県西部地震

平成13年9月

新宿歌舞伎町 雑居ビル火災  
アメリカ同時多発テロ事件

平成13年10月

機構改革により神田救助隊を減隊し、各本署に救助  
隊を1隊配備、枚方寝屋川管内救助隊は1当務3隊  
配置となる。(救助隊員45名)

平成15年1月

枚方本署の救助工作車をⅢ型に更新

平成16年10月

台風23号に伴う兵庫県豊岡市水害  
本消防組合で初めて緊急消防援助隊大阪府隊として  
豊岡市へ派遣出動

平成16年10月

新潟県中越地震  
死者40名 住宅全半壊約11万戸

平成16年12月

スマトラ島沖地震  
死者・行方不明者22.6万人

平成17年3月

「救助隊の編成、装備及び配置の基準を定める省令」  
が改正され公布される。大規模災害事象が多発して  
いる状況を踏まえ特別高度救助隊及び高度救助隊を  
創設して全国的な救助体制の強化を図る方針

平成17年4月

南出張所配備の救助工作車を特殊災害・大規模災害  
対応車として枚方本署に配備する  
※特殊災害・大規模災害対応車は、エアーテント、N  
BC災害用資器材等を積載し、特殊災害、集団災害  
に対応する車両として運用(枚消救助1)



※ APEC大阪会議 消防特別警戒隊結団式



※ 第29回全国消防救助技術大会(平成12年熊本市)



※ 平成17年10月 枚方市池之宮4丁目  
産廃処理場爆発火災



※ 特殊災害・大規模災害対応車(枚消救助1)

## 平成 17 年 4 月

J R 福知山線列車事故

本消防組合 2 度目の緊急消防援助隊大阪府隊として  
尼崎市へ派遣。3 日間にわたり乗客の救出活動を実施



※ 第 34 回消防救助技術近畿地区指導会（平成 17 年）

## 平成 18 年 1 月

寝屋川消防署 救助工作車を III 型に更新

## 平成 19 年 5 月

エキスポランドジェットコースター脱輪事故

乗客 20 名のうち死者 1 名 重軽傷 19 名

## 平成 19 年 8 月

第 23 回「大阪の消防大賞」を受賞

枚方市三矢河川敷の淀川本流にて少年 2 名が流された  
救助事案に対して、枚方署の指揮隊、消防隊、救助隊の連携活動が表彰される



※ 平成 19 年 4 月 枚方市招提田近 2 丁目の工場火災

## 平成 19 年

全国的に硫化水素に伴う死亡事案が相次ぐ

※トイレ用洗剤と 610 ハップ（硫黄入浴剤）を混合  
させて硫化水素を発生させるという事案。

また、この事案において発生した気体（硫化水素）

を素早く除去する為に、硫化水素除去装置を各署  
に配置する

※

## 平成 20 年 10 月

大阪難波 個室ビデオ店火災

死者 15 名 重軽傷 10 名

## 平成 21 年 4 月

高度救助隊を発足

本消防組合においては、政令指定都市及び中核市以外で初めて高度救助隊を発隊させ枚方署に配備（高度救助隊員 15 名・特別救助隊員 30 名体制）



※ 高度救助隊発隊式時の披露訓練

## 平成 21 年 11 月

フレーム式除染テントを購入、配備

## 平成 21 年 12 月

枚方東消防署 救助工作車を III 型に更新

## 平成 22 年 1 月

カリブ海 ハイチ大地震

死者約 31.6 万人

## 平成 23 年 3 月 11 日

東日本大震災

本消防組合 3 度目の緊急消防援助隊大阪府大隊として  
岩手県大槌町へ派遣出動。10 日間にわたり行方不明者の  
搜索、救出活動を実施



※ フレーム式除染テントを使用した訓練の様子

## 平成 23 年 7 月

東日本大震災の影響により、第 40 回消防救助技術近畿地区指導会及び第 40 回全国消防救助技術大会は中止と決定。中止となったのは第 1 回から数えて初めてのこととなった

## 平成 23 年 11 月

大阪市消防局の依頼により、JICA 救急救助技術研修訓練指導を枚方東消防署で実施。8 カ国 10 名の開発途上国消防関係者を受け入れ以降は指導隊として毎年参加



※ JICA 研修生への訓練指導

## 平成 23 年 12 月

東京日比谷公会堂にて開催された第 14 回全国消防救助シンポジウムにて、枚方東消防署上農係長が「つないだ命、ふたたび～92 時間後の救出を教訓に～」のテーマで発表

## 平成 24 年 4 月

機構改革により係制度を廃止し担当制へ救助係が救助担当へと変更

## 平成 25 年 12 月

第 1 回 RESCUE ネットワーク OSAKA 寝屋川消防署植埜主任が「Idea-R～発想力のある救助活動を目指して～」というテーマで発表以降、毎年本消防組合から発表者を輩出



※ 第 41 回全国消防救助技術大会（平成 24 年東京都）

## 平成 26 年 9 月

長野、岐阜県境の御嶽山が噴火  
死者 57 人 行方不明者 6 人

## 平成 27 年 4 月

特殊災害、集団災害に対応する車両として運用していた枚消救助 1 の廃車に伴い支援車 II 型を更新。特殊災害コンテナを救助隊、遠距離大量送排水コンテナを消防隊、支援コンテナを警防課が管理、運用する



※ 平成 26 年 1 月 枚方市高田 1 丁目  
交通事故 集団災害

## 平成 28 年 2 月

平成 27 年度大阪府東ブロック救助研修会を本消防組合が幹事市として実施。「NBC 災害活動要領」をテーマに、各所属の活動要領の紹介や応援体制の在り方、今後の連携について研修を行う。また東京消防庁警防部 NBC 災害対策担当係長を講師として招聘し、地下鉄サリン事件での活動概要等を聴講する

## 平成 28 年 4 月 16 日

熊本地震  
本消防組合 4 度目の緊急消防援助隊大阪府大隊として、熊本県南阿蘇村へ派遣



※ 東ブロック救助研修会

## 平成 28 年 7 月

第 31 回「大阪の消防大賞」を受賞

枚方市内で発生した救助事案において、建物 6 階窓から女性が身を乗り出し飛び降りようとしている緊迫した状況の中で、無事に女性を確保し尊い人命を救ったとして、枚方消防署の指揮隊、消防隊、救急隊、救助隊が表彰される



※ 大阪の消防大賞（枚方 2 部高度救助隊）

## 平成 28 年 12 月

東京日比谷公会堂にて開催された第 19 回全国消防救助シンポジウムにて、寝屋川消防署池田係長が「NBC 災害対応における近隣との連携強化について」というテーマで発表

## 平成 30 年 4 月

水難支援隊を発足

救命ボートを積載した放水砲車を運用し水難事案発生時には救助隊と連携した活動を行う。枚方本署消防担当に水上隊員を中心とした人員を配置する



※ 平成 29 年 7 月 枚方市池之宮 2 丁目の工場火災

## 平成 30 年 6 月

大阪府北部地震

枚方市震度 6 弱・寝屋川市震度 5 強

## 平成 30 年 7 月

平成 30 年 7 月豪雨（西日本豪雨）

救助隊を中心に 1 カ月近くにわたる長期派遣となる

## 平成 30 年 7 月

第 47 回消防救助技術近畿地区指導会は、緊急消防援助隊大阪府大隊が広島県に派遣中の為中止。また、第 47 回全国消防救助技術大会は台風 20 号近畿地方上陸の為中止



※ 大阪府北部地震の被害状況（枚方市南中振 2 丁目）

## 令和元年 5 月 1 日

改元 「平成」から新元号「令和」に

平成 31 年が令和元年となる

## 令和元年 6 月

G20 大阪サミットが大阪市内で開催されるに際し、6 月 24 日から 30 日までの間、関西国際空港及び南エリア進駐警戒拠点に救助隊を含めた 4 隊が派遣され、消防特別警戒を実施

## 令和元年 7 月

京都アニメーション放火事件

死者 35 人・負傷者 35 人

## 令和元年 9 月 10 月

ラグビーワールドカップ開催の為、枚方高度救助隊が近鉄花園ラグビー場へ派遣、特別警戒実施



※ G20 大阪サミット 南エリア進駐警戒隊（2 部制）

## 枚方消防署 高度救助隊



平成 30 年 2 月に導入されたⅢ型救助工作車。

過去 4 回の緊急消防援助隊派遣経験をもとに、高度救助隊として派遣時を考慮した車両構造、資器材を充実強化している。

キャビン上部には、派遣時の資器材増強を可能とする離脱式大型収納ボックスを設け、リアには津波災害や豪雨災害に対応できるよう、救命ボート船外機の積載プレートも設置している。ハイルーフキャビン内では、BC 災害時の防護服や水難事案時のウェット着装が立位で行える広大なスペースを確保しておりこの車両の一番の特徴といえる。この車両サイズでのバス型車両は全国初である。

資器材においても新たな資器材を多数導入し、高度資器材の更新や、大規模震災に対応するダイヤモンドチェーンソー等の破壊器具、通常災害でも使える丸鋸等の小型破壊器具、また G20 サミット派遣に備え、初動でサリン等を検知できる有毒ガス検知器も新規購入しており、高度救助隊としてあらゆる災害に対応できる仕様となっている。

## 枚方東消防署 特別救助隊

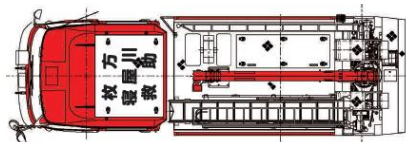


平成 21 年 12 月に導入されたⅢ型救助工作車。

Ⅲ型は、阪神・淡路大震災を教訓に地震等の大規模災害時の救助活動を目的とした車両で、四輪駆動車をベースに重量物を排除するための油圧クレーン、車両けん引等で使用する油圧ウィンチ、夜間活動時に使用する照明装置等を搭載している。また、倒壊家屋や瓦礫などの中にいる要救助者の声や動きの音響を探查する地中音響探知機、濃煙の中で熱のみを映し出し要救助者の検索に有効である熱画像直視装置等の高度救助資器材を積載し様々な災害に対応している。

なによりも、枚方東消防署の特別救助隊は、高度救助隊に引けを取らない技術、能力を備え、要救助者を必ず救出する不屈の精神と堅固なチームワークを有する隊員で編成されている。

# 寝屋川消防署 特別救助隊



※新車両イメージ図

平成 17 年 12 月に導入されたⅢ型救助工作車。

枚方寝屋川管内を流れる淀川では、毎年 10 件以上の水難事案が発生している。特に寝屋川署管内においては、水難事案の出動が多くある。リアには、船外機を直接取り付けて緊急走行できるための艀装が施されており、全国にも類をみないものである。

令和元年度、車両更新がなされる予定であり、資器材に関して従来の油圧系ではなく、迅速に搬送及び使用が可能な電動系を多く取り入れ、また救命ボートは上部ボックスから車両側面に積載できるように変更した。今後、日本国内においての〇災害やⅡ災害などの発生を予想し対応資器材の増強を図り、時代に合わせた多種多様な災害に対してさらなる迅速な初動対応が期待できる。

寝屋川救助隊は、最新鋭の車両、資機材を取り扱う救助隊員がその性能を十分に発揮できる知識と技術を持つことの重要性を理解し日々、練磨し市民の安全と安心を守り続ける。



## 枚方消防署 支援車Ⅱ型



平成27年4月に導入された支援車Ⅱ型。

3基のコンテナ(特殊災害用コンテナ、遠距離大量送排水用コンテナ、支援用コンテナ)を積み替えることにより、特殊災害、大規模災害、水源の確保が必要となる災害及び集中豪雨等による浸水災害等に対応している。

常時積載している特殊災害用コンテナについては、G20 大阪サミット特別警戒への派遣実績もあり、現在オゾン除染システムをはじめ、特殊災害に対応する資器材が導入、強化されている。集中豪雨等が予測される場合は、事前に遠距離大量送排水用コンテナに積み替え、即時出動できる体制をとっている。また、緊急消防援助隊や府下広域応援に基づき出動要請を受けた時は後方支援小隊として運用する為、支援用コンテナには各種装備を収容するラックを積載している。



# 緊急消防援助隊創設

緊急消防援助隊は、平成7年の阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、大規模災害等において被災した都道府県内の消防力では対応が困難な場合に、国家的観点から人命救助活動等を効果的、かつ迅速に実施し得るよう、全国の消防機関相互による援助体制を構築するため、平成7年6月に創設された。更に、平成15年6月に消防組織法が改正され、平成16年4月から緊急消防援助隊が法制化されるとともに、大規模・特殊災害発生時の消防庁長官の指示権が創設された。

また、平成23年に起きた東日本大震災の教訓を活かし、南海トラフ地震等への対応力を強化するため、緊急消防援助隊第3期基本計画では登録目標隊数を6000隊と大幅増隊するとともに、迅速に被災地に派遣出動させる「統合機動部隊」を全国に50隊新設、長期活動をバックアップする拠点機能形成車両等を配備し「後方支援小隊」を全国で160隊増隊、自衛隊や警察との連携を含めた通信体制を強化するため全国に50隊の「通信支援小隊」を新設、大規模地震等の石油コンビナート災害等への対応力を強化するため、特殊災害対策に特化した、「ドラゴンハイパー・コマンドユニット（エネルギー・産業基盤災害即応部隊）」を全国に12部隊新設、さらに近年発生が特に危惧されている、「東海地震」「首都直下地震」「南海トラフ地震」にはアクションプランを作成し、大規模地震の発生と同時に出動が可能な体制（迅速出動）の導入を図り、災害大国である日本の消防力強化にオールジャパンで挑んでいる。



阪神・淡路大震災の被災状況・活動状況

※ 火災被害が甚大であった長田区内



# 兵庫県豊岡水害

## <概要>

平成16年10月20日、台風23号の大雨の影響で、豊岡市内を流れる円山川右岸堤防が決壊し、豊岡市内が浸水被害を受け、多くの住民が住宅などに取り残された。豊岡市内の被害は死者1名、負傷者46名、被災者は市民の約4割にあたる18000人に上った。住宅被害は全壊231棟、半壊2930棟、一部損壊200棟、床上浸水278棟、床下浸水2208棟に上った。

本消防組合からは、21日から22日の計2日間にわたり、寝屋川救助小隊をはじめ延べ4隊18名が出動、14名の要救助者の救出活動を行った。



# JR福知山線脱線事故

## <概要>

平成17年4月25日午前9時18分頃、兵庫県尼崎市久々知にある福知山線塚口駅-尼崎駅間の右カーブ区間で宝塚発JR学研都市線経由同志社前行き上り7両編成快速列車の前5両が脱線し、先頭の2両は線路脇のマンションに激突、乗客と運転士合わせて107名が死亡、562名が負傷した。

本消防組合からは、事故翌日の26日から28日の計3日間にわたり、枚方救助小隊をはじめ延べ6隊18名が出動し、最も困難な1両目2両目での活動を主に担当、結果19名の要救助者の救出活動を行った。



# 東日本大震災

## <概要>

平成23年3月11日14時46分、宮城県牡鹿半島東南東約130kmの三陸沖深さ約24kmの地点を震源とする東北地方太平洋沖地震が発生、地震の規模はM9.0で最大震度は宮城県栗原市で震度7を記録した。この地震により、場所によっては波高10m以上、最大遡上高40.1mにも上る巨大な津波が発生し、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害が発生した。また東京電力福島第一原子力発電所が被災し、放射性物質が漏れ出す深刻な事態となった。

令和元年7月時点で、震災による死者・行方不明者は18429人、重軽傷者は6157人、建物の全壊・半壊は合わせて404890戸といわれている。またその直接的被害額は16兆円から25兆円と試算され、自然災害での経済損失額としては世界をみても史上1位となっている。まさに日本の国難という災害である。

本消防組合からは、発災当日より3月20日までの計10日間にわたり、枚方高度救助小隊をはじめ延べ28名の隊員が緊急消防援助隊大阪府隊として岩手県大槌町に派遣された。そんな活動の中、本消防組合を中心とした大阪府隊が92時間ぶりに生存者を救出したというニュースは、当時のマスコミにも大きく取り上げられた。



# 熊本地震

## <概要>

平成 28 年 4 月 14 日 21 時 26 分、熊本県熊本地方を震央とする震源の深さ 11 km の M6.5 の地震が発生し、熊本県益城町で震度 7 を観測した。その 28 時間後の 4 月 16 日 1 時 25 分には、同じく熊本県熊本地方を震央とする震源の深さ 12 km、M7.3 の地震が発生し、西原村と益城町で震度 7 を観測した。4 月 14 日の地震から 4 月 29 日に至るまで、計 12 回の震度 5 強以上の地震が発生、この地震活動全般を「熊本地震」とした。

この地震の直接的な被害で、死者は 161 人、負傷者 2692 人、家屋全壊 8369 棟、半壊 32478 棟となっている。

本消防組合からは、4 月 16 日から 4 月 23 日までの計 8 日間にわたり、枚方高度救助小隊をはじめ延べ 50 名の隊員が緊急消防援助隊大阪府隊として熊本県南阿蘇村に派遣された。



# 平成30年7月豪雨

## <概要>

平成30年6月28日から7月8日にかけて、台風7号および梅雨前線等の影響により、西日本を中心に北海道や中部地方を含む全国的に広い範囲で集中豪雨となった。7月6日17時10分に長崎・福岡・佐賀の3県に大雨特別警報が発表され、続いて19時40分に広島・岡山・鳥取、22時50分に京都・兵庫と、1日で8府県に大雨特別警報が発表された。さらに翌7日12時50分には岐阜県、翌8日5時50分には高知・愛媛の2県にも大雨特別警報が発表され、最終的に運用を開始して以来最多となる計11府県で大雨特別警報が発表された。西日本を中心に河川の氾濫や洪水、土砂災害が発生し、令和元年8月現在、死者263人・行方不明者8人・負傷者484人、住宅の全壊6783棟、半壊11346棟、一部破損4362棟、床上及び床下浸水が28619棟という甚大な被害となり、「平成最悪の水害」となった。

本消防組合からは、7月6日から8月1日までの間、枚方高度救助小隊をはじめ延べ58名の隊員が緊急消防援助隊大阪府隊として広島県東広島市や広島市安芸区矢野東、広島県安芸郡坂町小屋浦地区等を転戦しながら活動を行い、大阪府大隊として14名救出した（うち生存者2名）。またこの派遣は救助管理司令制度が出来てから初めての派遣活動であったが、各管理司令は救助指揮的な立場となり活動を行い、今まで以上に大阪府大隊の中でも枚方寝屋川が中心となる活動を行った。



# 大阪府の取り組み

東日本大震災を契機に、大阪府大隊がもっと一つにまとまらなければならないという機運が高まった。

そこから代表消防本部である大阪市消防局が主導し、緊急消防援助隊（救助中隊）合同訓練、大阪府下救助シンポジウム、RESCUE ネットワーク OSAKA グループ訓練、国際緊急援助隊（救助チーム）府下合同訓練、また救助専科や初任科の大阪府下と大阪市の府市統合等、今では全国にも類を見ないオール大阪体制ができつつある。

令和元年度においても、大阪府土砂風水害機動支援部隊の創設や、大阪府N B C災害対応部隊出動計画運用開始など、大阪府内の変革は大きなものがある。また通常災害時の応援出動など、近隣市との連携もより強固なものとなっている。

今後も一つの自治体では対応できない大きな災害、予期せぬ災害は必ず起こる中、いかに大阪府として一つになり対応を行っていくかが重要であり、その中でも枚方寝屋川救助隊は先頭に立って市民の生命、財産の保護に努めなければならない。



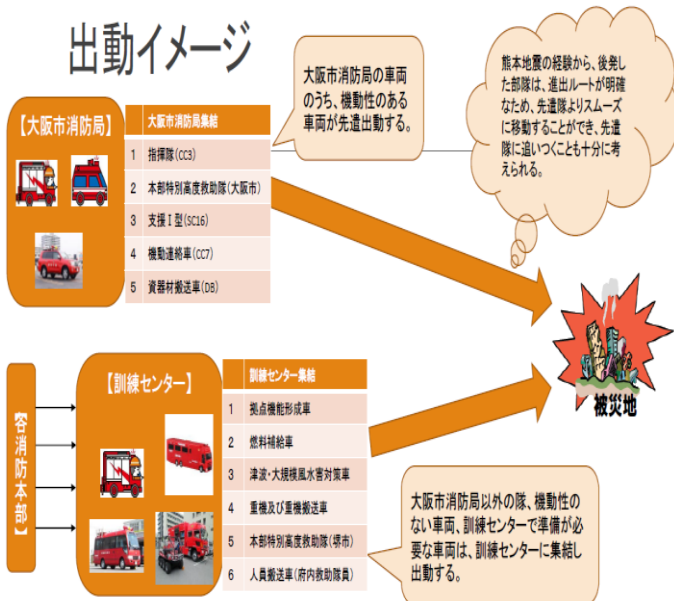
※ 平成 27 年 大阪府・大阪市合同総合防災訓練



※ 平成 27 年 第 3 回

RESCUE ネットワーク O S A K A

## 出動イメージ



※ 大阪府土砂風水害機動支援部隊のイメージ図



※ 平成 30 年 淀川水域消防本部による合同水難訓練

## 国際消防救助隊

# IRT-JF ( International Rescue Team Of Japan - Fire Service )

### 国際消防救助隊の概要

国際緊急援助隊（JDR=Japan Disaster Relief Team）は、救助チーム、医療チーム、専門家チーム、感染症対策チーム、自衛隊部隊で部隊が編制され、被災国の要請により政府が国際協力機構（JICA）の調整の下で援助の目的、役割に応じて、いずれかまたは全てのチームを派遣する。その中で被災者の捜索、救出にあたる救助チームは、全国の消防本部、警察本部、海上保安本部からの選抜で隊員を構成しており、救助チーム派遣時の標準編制は、69名体制となっており、2中隊が2か所で、24時間体制で10日間救助活動を行うことができるよう編制されている。この救助チームの核となるのが全国の消防本部から選抜される**国際消防救助隊（IRT-JF）**である。

消防機関は、災害時対応が主任務であり、常日頃から人命救助、捜索活動を実施し、その技術と知識の高さから救助チームをけん引する存在となっており、**国際消防救助隊（IRT-JF）**の登録は、全国77消防本部、599名で、本消防組合からは6名の隊員が登録されている。

国際消防救助隊ワッペン



枚方寝屋川国際消防救助隊員(令和元年4月現在)



### 日本の国際緊急援助隊（JDR）の救助チームの現状

IECという各国の救助チームの能力を評価するものがあり、平成22年に日本は初めて受験することとなり、その結果は最高分類である「Heavy（ヘビー）」の評価を受けた。また、IEC受験後の再評価試験となるIERを平成27年に受験し、再度「Heavy（ヘビー）」の評価を受け、日本の救助チームのレベルの高さを世界に示す結果となった。

IECやIERでの評価は、災害派遣時の活動場所の振分けにも反映され、最高分類である日本の救助チームは、人命救助の可能性が高く、被害が大きく活動の困難な場所での救出、捜索活動が振分けられる可能性が高くなる。また、日本人の規律、礼儀の正しさ、そして被災者への思いやりが世界のメディアに取り上げられ日本の国際緊急援助隊（JDR）は非常に高い評価を受けている。





### 枚方寝屋川消防組合国際消防救助隊の取組み

年間を通じて国際消防救助隊員として能力向上を努めることを課せられ、登録された隊員のみがパソコンやスマートフォンで閲覧できる登録隊員用ホームページを活用して派遣体制、各救出の手法、技術等を学びながら、IRT連携訓練(各開催都市)、JDR連携訓練(堺市)、国際消防救助隊員訓練(大阪市)、国際消防救助隊員セミナー(滋賀県)、国際消防救助隊研修(組織内)、国際消防救助隊員調整会議(組織内)、資機材メンテナンス会(成田空港)等、様々な派遣によりその技術と知識を向上させており、当組合の隊員の海外派遣はまだまだ実現していないものの、毎月7、8、9、10日に派遣要請がかかれば本消防組合の隊員が派遣されるため、常に万全の準備を行っている。

今年度は、平成31年4月に、国際消防救助隊員の派遣に関する要綱が改正され、派遣体制の充実強化が図られた。また、令和元年9月に消防大学校救助科に対する教育支援隊として、当組合の国際消防救助隊員(6名)が初めて消防大学校へ派遣され、全国から集まった救助科学生60名に対し、国際消防救助隊員としての知識や技術、そして心構えを指導し、日本の救助隊のレベルアップに貢献した。



※ 消防大学校教育支援隊への派遣



# 消防救助技術大会の出場実績（昭和47年 第1回 ～ 令和元年 第48回）

※記載されている種目名は全国大会出場種目

## 昭和47年

☆ 第1回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市） ★ 第1回全国消防救助技術大会（東京都）  
はしご登はん ロープ登はんモンキー（渡過） 水平（渡過）

## 昭和48年

☆ 第2回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市） ★ 第2回全国消防救助技術大会（大阪市）  
障害突破 ロープ応用登はん ロープ登はん はしご登はん ロープブリッジ渡過（2チーム）

## 昭和49年

☆ 第3回消防救助技術近畿地区指導会（神戸市） ★ 第3回全国消防救助技術大会（横浜市）  
ロープ応用登はん はしご登はん

## 昭和50年

☆ 第4回消防救助技術近畿地区指導会（堺市） ★ 第4回全国消防救助技術大会（東京都）  
ロープ応用登はん ロープブリッジ渡過 ほふく救出

## 昭和51年

☆ 第5回消防救助技術近畿地区指導会（尼崎市） ★ 第5回全国消防救助技術大会（名古屋市）  
ロープブリッジ渡過

## 昭和52年

☆ 第6回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市） ★ 第6回全国消防救助技術大会（横浜市）  
障害突破 ロープブリッジ渡過 ロープブリッジ救出 100m競泳（平）

## 昭和53年

☆ 第7回消防救助技術近畿地区指導会（姫路市） ★ 第7回全国消防救助技術大会（千葉市）  
はしご登はん ロープブリッジ渡過 ロープ登はん ほふく救出 水中検索 水中結索

## 昭和54年

☆ 第8回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市） ★ 第8回全国消防救助技術大会（大阪市）  
障害突破 はしご登はん ロープブリッジ渡過 水中結索

## 昭和55年

☆ 第9回消防救助技術近畿地区指導会（神戸市） ★ 第9回全国消防救助技術大会（名古屋市）  
はしご登はん ロープ登はん ほふく救出

## 昭和56年

☆ 第10回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市） ★ 第10回全国消防救助技術大会（横浜市）  
はしご登はん ロープ登はん ロープブリッジ救出 ほふく救出 引揚救助

## 昭和57年

☆ 第11回消防救助技術近畿地区指導会（西宮市） ★ 第11回全国消防救助技術大会（横浜市）  
はしご登はん ロープ登はん 高所人命救助 引揚救助 ほふく救出（2チーム）

## 昭和58年

☆ 第12回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市） ★ 第12回全国消防救助技術大会（大阪市）  
障害突破 はしご登はん ロープブリッジ渡過 ロープ登はん ほふく救出（2チーム）基本泳法

## 昭和59年

☆ 第13回消防救助技術近畿地区指導会（姫路市） ★ 第13回全国消防救助技術大会（名古屋市）  
障害突破 はしご登はん ロープブリッジ渡過 ほふく救出 引揚救助 ロープ登はん（2チーム）基本泳法

昭和 60 年

☆ 第 14 回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市）★ 第 14 回全国消防救助技術大会（広島市）  
ロープ応用登はん はしご登はん ロープ登はん 高所人命救助 ほふく救出 基本泳法

昭和 61 年

☆ 第 15 回消防救助技術近畿地区指導会（神戸市）★ 第 15 回全国消防救助技術大会（神戸市）  
ロープブリッジ渡過 ほふく救出

昭和 62 年

☆ 第 16 回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市）★ 第 16 回全国消防救助技術大会（千葉市）  
ロープ登はん ほふく救出 ロープブリッジ救出 溺者救助

昭和 63 年

☆ 第 17 回消防救助技術近畿地区指導会（尼崎市）★ 第 17 回全国消防救助技術大会（横浜市）  
高所人命救助（2チーム）

平成元年

☆ 第 18 回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市）★ 第 18 回全国消防救助技術大会（名古屋市）  
ロープブリッジ渡過 高所人命救助 ロープブリッジ救出

平成 2 年

☆ 第 19 回消防救助技術近畿地区指導会（神戸市）★ 第 19 回全国消防救助技術大会（広島市）  
ロープ応用登はん ロープブリッジ渡過

平成 3 年

☆ 第 20 回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市）★ 第 20 回全国消防救助技術大会（大阪市）  
ロープブリッジ渡過 溺者搬送 救援物資搬送

平成 4 年

☆ 第 21 回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市）★ 第 21 回全国消防救助技術大会（千葉市）  
ロープブリッジ渡過 溺者搬送

平成 5 年

☆ 第 22 回消防救助技術近畿地区指導会（神戸市）★ 第 22 回全国消防救助技術大会（福岡市）  
ロープブリッジ渡過 ロープブリッジ救出 溺者搬送

平成 6 年

☆ 第 23 回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市）★ 第 23 回全国消防救助技術大会（京都市）  
障害突破 引揚救助 ロープブリッジ救出 溺者搬送

平成 7 年

☆ 第 24 回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市）★ 第 24 回全国消防救助技術大会（北九州市）  
障害突破（2チーム） ロープブリッジ救出 引揚救助 溺者搬送 人命救助

平成 8 年

☆ 第 25 回消防救助技術近畿地区指導会（神戸市）★ 第 25 回全国消防救助技術大会（札幌市）  
障害突破 ロープブリッジ救出 斜めブリッジ救助

平成 9 年

☆ 第 26 回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市）★ 第 26 回全国消防救助技術大会（千葉市）  
障害突破 ロープブリッジ救出 溺者搬送

平成 10 年

☆ 第 27 回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市）★ 第 27 回全国消防救助技術大会（大阪市）  
ロープブリッジ救出 引揚救助 斜めブリッジ救助 溺者搬送

平成 11 年

☆ 第 28 回消防救助技術近畿地区指導会（神戸市）★ 第 28 回全国消防救助技術大会（横浜市）  
ほふく救出 ロープブリッジ救出 引揚救助 溺者搬送

平成 12 年

☆ 第 29 回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市）★ 第 29 回全国消防救助技術大会（熊本市）

障害突破 引揚救助 溺者搬送 溺者救助

平成 13 年

☆ 第 30 回消防救助技術近畿地区指導会（神戸市）★ 第 30 回全国消防救助技術大会（東京都）

障害突破 ロープブリッジ救出 斜めブリッジ救助 基本泳法 溺者搬送

平成 14 年

☆ 第 31 回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市）★ 第 31 回全国消防救助技術大会（名古屋市）

ロープブリッジ救出 基本泳法 溺者搬送

平成 15 年

☆ 第 32 回消防救助技術近畿地区指導会（神戸市）★ 第 32 回全国消防救助技術大会（仙台市）

ほふく救出 ロープブリッジ救出 基本泳法 溺者救助 水中結索

平成 16 年

☆ 第 33 回消防救助技術近畿地区指導会（三木市）★ 第 33 回全国消防救助技術大会（三木市）

障害突破 引揚救助 基本泳法 溺者救助 水中結索 人命救助

平成 17 年

☆ 第 34 回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市）★ 第 34 回全国消防救助技術大会（さいたま市）

障害突破 ほふく救出 基本泳法

平成 18 年

☆ 第 35 回消防救助技術近畿地区指導会（三木市）★ 第 35 回全国消防救助技術大会（札幌市）

引揚救助 基本泳法 溺者搬送

平成 19 年

☆ 第 36 回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市）★ 第 36 回全国消防救助技術大会（東京都）

溺者搬送

平成 20 年

☆ 第 37 回消防救助技術近畿地区指導会（三木市）★ 第 37 回全国消防救助技術大会（北九州市）

溺者搬送

平成 21 年

☆ 第 38 回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市）★ 第 38 回全国消防救助技術大会（横浜市）

溺者搬送

平成 22 年

☆ 第 39 回消防救助技術近畿地区指導会（三木市）★ 第 39 回全国消防救助技術大会（京都市）

基本泳法 溺者搬送 溺者救助

平成 23 年

☆ 第 40 回消防救助技術近畿地区指導会 ★ 第 40 回全国消防救助技術大会

※ 東日本大震災の影響により、近畿地区指導会及び全国消防救助技術大会中止

平成 24 年

☆ 第 41 回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市）★ 第 41 回全国消防救助技術大会（東京都）

引揚救助 溺者搬送 溺者救助

平成 25 年

☆ 第 42 回消防救助技術近畿地区指導会（三木市）★ 第 42 回全国消防救助技術大会（広島市）

溺者搬送

平成 26 年

☆ 第 43 回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市）★ 第 43 回全国消防救助技術大会（千葉市）

溺者搬送

平成 27 年

☆ 第 44 回消防救助技術近畿地区指導会（神戸市）★ 第 44 回全国消防救助技術大会（神戸市）

全国出場なし

平成 28 年

☆ 第 45 回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市）★ 第 45 回全国消防救助技術大会（松山市）

全国出場なし

平成 29 年

☆ 第 46 回消防救助技術近畿地区指導会（三木市）★ 第 46 回全国消防救助技術大会（仙台市）

引揚救助 基本泳法

平成 30 年

☆ 第 47 回消防救助技術近畿地区指導会（大阪市）★ 第 47 回全国消防救助技術大会（京都市）

※ 近畿地区指導会は平成 30 年 7 月豪雨の影響により中止

全国消防救助技術大会は台風 20 号近畿上陸の為中止

令和元年

☆ 第 48 回消防救助技術近畿地区指導会（三木市）★ 第 48 回全国消防救助技術大会（岡山市）

全国出場なし



# 現役救助隊員へ

ここに記念すべき枚方寝屋川消防組合救助隊発足 50 周年を令和元年の  
幕開けに迎えるにあたり、心からお喜び申し上げます

これから、この伝統を引き継ぐ救助隊員よ！

如何なることから逃げ出してはならない。諦めてはならない。

その時の可能性を見失ってはならない。

救助魂ここにあれ！

警防部長 松宮 隆

## 枚方救助隊

清水 健治	上田 晶	吉岡 克典
田村 浩太	佐藤 忠	森田 晃博
松本 紘介	中西 亮太	奥田 龍生
樺田 翔伍	沖田 真也	上尾 良太
上田 陽之	木村 海斗	佐々木 悠介

## 枚方東救助隊

仲谷 真一	柴田 翔平	山下 雅成
片山 真志	前田 和輝	田邊 敬太
山本 義輝	赤木 聡太	池田 亮太
光原 宏治	前田 颯	北田 純一
瀧本 翔史	平川 優斗	神谷 大貴

## 寝屋川救助隊

植埜 智志	栗田 佳和	田宮 順次
山口 惇也	東田 圭佑	竹内 悠
松富 賢太郎	東野 太一	鈴木 涼平
徳永 祐也	松川 将吾	山内 隆弘
森澤 昂平	南条 宜紀	成富 勇士郎



～伝統継承～

## 枚方寝屋川救助隊 50 年史

令和元年 10 月 1 日 発行

編集 警防部警防課

発行 枚方寝屋川消防組合

協力 枚方市寝屋川市防火協会連絡協議会

枚方市防火協会

寝屋川市防火協会

印刷 株式会社フクダP.R.印刷

OSAKA

枚方寝屋川

RESCUE TEAM

人命財産 保護する為に

自ら生命を 賭けてゆく

我らの生甲斐

ここにあり